

米国のトラック事情について

東京支店高橋です。

年末から現在にかけ、業界紙には国内外問わず「ドレーが手配できない」「米国内陸コストが上がっている」等の記事が多々掲載され、実際にお客様からご相談を多く受けております。その中でも今回は「米国のトラック事情について」米国内の情報も擦り合わせつつ、お送り致します。



現在米国では、e-commerceの普及により物流増加、それに伴いトラック需要も伸び続けております。そんな中、連邦自動車運送安全局は、運転者の労働時間管理の為に、全業者に対し、トラックへELD(Electric Logging Device)という電子端末の装着を義務付けました。ELDはそのトラックがどのくらいの距離・時間走ったかを記録する為、トラックは長距離(長時間)の労働ができなくなりました。例えば、今まで2日で輸送していた距離(時間)も3日で輸送する必要がでてきたりして、トラックがさばける仕事量が減っている状況です。

また、単純にELDの導入費用や使用料の金額負担もある影響で小中規模業者の中には閉業する会社もあり、結果貨物の滞留および残された業者によるトラック賃単価の上昇につながっています。そして、このようなトラックの供給逼迫は2018年春まで続く模様とのこと…。実際、年明け1月ごろからその影響を受け始め、船会社によっては内陸のドアサービス休止を発表してきた船会社もございます。ここ数年船会社の合併が続いており、4月からはONEもサービス開始となります。船会社が減っている中、内陸ドアサービスの休止を発表した船会社もあり、来期5月以降の北米向けの海上運賃は船会社が一括値上げ(GRI=運賃修復)が避けられない状況です。

そんな厳しい状況ではありますが、お客様の大切な貨物を預かる者として、私共JAPN TRUSTは米国現地法人GREAT LUCK INC.の独自ネットワークで、米国内ドレーも全力で確保して参りますので、引き続き、またお困りの際にはぜひお声かけください。

情熱羅針盤

ジャパントラストかわら版



タイ代理店 * ALL TRANS 訪問報告

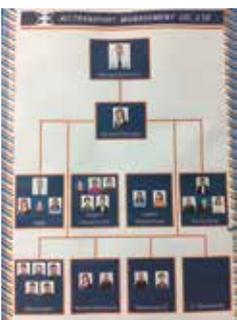
内勤営業の石原です。
1月末にタイの代理店：ALL TRANSに訪問してきました。

ALL TRANSは創業30年ほど、ジャパントラストと取引を開始して20年ほどになります。タイと日本は時差2時間。タイ向け案件の通関・国内現地のドレー手配など手厚くサポートしてくれます。

フォワード部門「ALL TRANS」と道を挟んで向かい側に書類・通関などを取りまとめている関連会社「TRANSWAY EXPRESS」があり、2つの会社を併せて、30名ほどのスタッフが勤務しています。ALL TRANSのスタッフは、親日家で明るく、仕事熱心で、オフィスはキーボードを叩く音と時折タイ語と笑い声が聞こえます。



【前列右から4番目：石原 ALL TRANSの皆様と】



タイの交通事情は決して良くなく、通勤時間は大渋滞。道路は水はげが悪く、大雨の後は道路が浸水してしまい通行止めになることもあるそうです。

ALL TRANSのスタッフは、悪天候や交通事情で仕事に穴をあけないようにみんな会社から1km圏内に住んでいます。アットホームな事務所の印象とは違い、みんなプロ意識が高いと感じました。レスポンスが早いのは時差が少ないせいなようです。

手作りでしたが、JTCと同様に組織図も壁に掲示してあり社長のMr.PISITは「今後、社内のIT化を進めたい」とおっしゃっていました。国は違えど、ALL TRANSと弊社はCOMPANY POLICY、目標など似ている点が多く弊社もALL TRANSに負けないう、お客様に満足していただけるサービスをご提供しなければと感じた訪問でした。
名古屋本社：石原 あい



ジャパトラダービー in 太平洋(北中南米航路)

弊社2月度の北中南米航路 コンテナ本数取り扱い
第1位のジャパントラスト社員営業マンは

日比野 弘嗣

ご担当させていただいておりますお客様、
ブッキングありがとうございました。
今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。



【ジャパトラマン】